

# さざんか

第 125 号、2012 年 3 月

ひょうたんからこま。先月の、編集後記でそろそろ「さざんか」のリニューアルあるいは廃止をつぶやいたところ、あっという間に、話がすすみ、「さざんか」廃刊、新しい「地域連携室便り（仮称）」の創刊ということになりました。

2000 年に創刊して、途中、合併号とかでやや手抜きをしたものの、可能な限り毎月発行を目指してそれなりによく頑張ってきたものだと思います。

時は流れる、ということが、あるいは、別の言葉でいうと一期一会ということが一貫したテーマと云うか、感じたことだったように思います。東北大震災で家族や、財産や、土地や船を失って嘆いている間にも、容赦なく時は過ぎ去っていく、決して待ってはいはくれないということです。少年老い易く学成り難し、光陰矢の如し。この 10 年で、編集者も読者も 10 年年を取ったことになりました。そんな、当たり前のことが、なぜか感慨深く感じられるのは、やはり時の流れのなせる業でしょうか。

はるか遠いむかしから、鴨長明や、吉田兼好が感じていた日本人の DNA は 21 世紀になっても流れ続けていると言うことは、日本民族が日本民族であり続けたからこそかも知れません。少子高齢化社会が到来する（と、限ったわけでもないと思うのですが・・・）備えとして移民労働者が必要になると言うくだらない議論が悪夢に変わらないように祈るだけです。言葉も文化も異なる外国人をただ安い労働力としてのみ代々受け入れることは、もののあわれや、わび、さびの世界、絆を大切にす風土を失うことになりかねないと、危惧する次第です。俳句や短歌の文化が日常に浸透している日本は本当に素晴らしいと思うのです。また、いつの日にか、どこかでみなさまに会える日が来るといいですね。長きにわたり「さざんか」のご愛読ありがとうございました。どうか、お元気でお過ごしください。

---

俳句

西屋敷喜美子

春炬燵 三日がかりの 文となる

人生を 語る媪の 春炬燵

ねむられぬ 春の嵐の うちにをり

---

---

## 県立北薩病院の基本方針

---

---

- 1 患者さんの満足、ご家族の安心を提供します
- 2 急性期医療の実践と、より高い専門医療を追求します
- 3 地域の医療、福祉との連携を強め、これを支援します
- 4 仕事を通して喜びと生き甲斐を追求します

---

---

## 県立北薩病院の理念

---

---

慈愛・協調・前進

---

---

---

---

### 生きるむずかしさ

---

---

別府政隆

桜の花が咲きほころびる頃、この季節が温暖で何となく過ごし易い季節なのかもしれません。人生で誰かが必ず通った道である。その道とは、卒業、入学である。これも桜の季節である。子供達は皆が真剣そのものに忙しい心境ではなかろうか。これも一つの道しるべとでも云うのであろうか。この時期に合わせるかのように、野山の木々達もそれぞれ、芽吹き始めているではないか。そんな想いをしている私でした。今から凡そ 60 数年前、幼少の頃を懐かしく思い出しながら、ペンを執っています。

当時、どこの家庭でも子供たちが多く賑やかだった。男の子、女の子、一緒になって遊んだ。時に近所のじいちゃんから叱られた思い出がよみがえるのである。すべて手作りの遊び道具を使って幼少を終えた。今の子供達は、金さえ出せば、遊び道具は何でも手に入る時代だけに、考える事、工夫する力が欠けているのではと懸念するのである。しかし、お互いに残された人生を少しでも良い前向きに人の愛情を大切に生きる事、譲

り合い、助け合って互いの絆で喜びを分かち合って生きて行きたいものです。迷わず、自分の道を歩きたいものです。

---

---

## 短歌

瀬戸好子

連れ立ちて共に来る日はもうあらず 湯の宿に偲ぶ命日の友  
難聴の夫との明け暮れちぐはぐの会話は時に笑いとなりて  
山茶花は高木となりて咲きみだれ固き蕾は枝にすずなる

---

---

## 病院からのお知らせ

\* 肺炎ワクチンの予防接種を行っていましたが、ワクチン不足にて予約は中止にしておりました。しかし、少しずつ回復しており一部で接種可能となっております。詳細は各科外来でお問い合わせください。予約制になっております。

\* インフルエンザ感染もピークを過ぎたようです。マスク着用、面会制限等ご協力ありがとうございました。油断大敵、3月末まではこれまでと同様の対応をお願いいたします。

\* 4月から広報誌がリニューアル致します。

\* 内科の中野賢二先生、古別府裕明先生が3月一杯で転勤されます。新赴任先での活躍をお祈りいたします。

---

---

## ラストカラーマン カラーマン（とその女）

長らく続いた初代「さざんか」が3月で終了することになった。カラーマンとして投稿し始めてから、思えば、随分と時を重ねたような気もするし、いやいやついこの間のことであったようにも感じる。まったくもって、人生は主観である。人生は長いのか、短いのか。数字でいえば、たかだか80年前後の人生であることだけは確かだ。

（あらあ、男女ひと括りにしないでね。平均寿命でいうと、男性の寿命は80年もないし、一方で、女性はやがて90歳に届こうかとしているのよ。大和なでしこは女子サッカーと同様に、世界一なのよ。世界一。これってものすごいことなんだわ、たぶん。アメリカ人よりも、中国人よりも、イギリス人よりも、フランス人よりも、パキスタン人よりも、朝鮮人よりも、ロシア人よりも上なのだから。ただし、長生きが良いことだと言う前提がいるけれどね・・・）

辛い人生は長く、楽しい人生は短いのか。平凡な人生は長く、波乱万丈の人生は短いのか。長かろうと、短かろうと、あるいは長く感じようと、短く感じようとそれがいったいどうしたと言うのだ、と云ってしまうと、幸福論とか人生論とかはこの世に無用になってしまうであろう。(無用の用って言葉もあるけどね)

「もののあわれ」も「わび、さび」もあつたもんじゃない。あるいは、宗教もその存在価値がなくなるのかもしれない。何のために生きているのか、何をすれば良いのか、どうすれば心が満たされるのか。なにゆえこの世に生まれて来たのか、という問いかけに対する答えの一つが宗教なのであろう。遠くの地では、厳しい自然と戦ってきた人々には、自然の中でのやすらぎは期待できなかったのではなかろうか。

エルサレムとかメッカとかメジナとか、聖地とされる場所は、行ったことがないので本当のところは知らないが、木々の緑や清かな小川が流れ、花咲き乱れる場所ではなさそうに見える。キリストとかマホメットとかに関連すればこそその聖地なのであろう。聖地巡礼することが人生の目的になっている宗教もあるようだ。そもそも、人々が、もし人生の意味を求めるために宗教に何かを見出そうとしたとき、一神教ではどうしてもその寛容度が狭くなってしまわざるを得ない、と多神教である(けっして、無神教ではない)われわれは思ってしまう。まあ、事実、イスラム教とキリスト教はお互いに千年以上も、相手宗教の撲滅をはかり、皆殺しとか、すべて奴隷にしてしまうとか、若い女性はすべてハーレムに囲うとか、財産を根こそぎ奪ってしまうとかを繰り返してきているし、キリスト教にいたっては、相手がイスラム教ではなくても、アメリカ新大陸でインディアンやマヤの人々を殺しまくったり、凌辱の限りを尽くして混血文明まで作ってしまうほどの激しさである。

もうすぐ、巷には今年も桜が咲き誇る。やさしく、美しい日本列島で過ごして来た人々は、無理に人生の意味を問いかけなくても良かったのかもしれない。自然と戦わずに、自然と共存してきた人々が畏れ、敬うのは日本列島の自然そのものであったのではなかろうか。特定のアラールとかキリストとか云う神を必要としなかった。今年の桜はやがて足早に散っていき、初夏になり、梅雨がきて、やがて夏になる。秋には、紅葉が咲き乱れ、沢山の収穫に恵まれる。やがて、寒い冬がくる。それでも、冬のあとは、また春が巡ってくることを知っているのだから、冬の寒さにも厳しさにもじっと耐える。そういう、四季の中で生きて来た人々にとっては、循環こそあれ、ただの一方的な時の長さというものはあまり意識しなかったのかもしれない。不老長寿はギリシア神話や秦の始皇帝の話である。

(なんか、カラーマンシリーズが長かったのか、短かったのかというどうでも良い話からずいぶんとはなしが脱線してるわねえ。最後なのに、あたしの出番が少ないわよ。)

そ、そうだった。最終回と云う事を忘れていた。もう無駄な人生の長短の話はやめよう。

手元の乏しい情報では、わずかではあるが、この「カラーマン」シリーズを楽しみにしてくれている読者もいるらしい。「カラーマン」の由来は、頸椎「カラー」に由るものであり、頸椎カラーをした理由は頸椎ヘルニアによる左上肢の筋委縮と筋力低下をきたしたからである。一般的には、筋委縮をきたすような脊髄病変であれば、手術をする必要があるのであるが、内服と頸椎カラーの装着でここ 5 年以上、病状の進行なくこれたことはある意味奇跡的であるとも言えそうだ。ち、違う。カラーマンの名前の由来を説明している場合ではなかった。数少ない、読者の方にメッセージを送ろうとしたのだった。

みなさん、永い間、ご愛読いただき有難うございました。(まあ、あたしの読みでは十数人の愛読者に過ぎないと思うけど、それはそれでいいのだわ。数とか、長さだけが人生ではないのだから。あれ、あたしも人生論にはまってしまいそうだわ。その前に、ひとこと。みなさん、本当に長い間ありがとうございました。カラーマンの女なんて、フェミニストの人には女性蔑視だ、とおこられそうだけど、これが、あたしが望み、そしてあたしにふさわしい生き方だったのです。とおくから、みなさまが幸せな人生を送られることを望んでいますし、そっと見守っています。お元気で)

と、いうことで、そろそろ紙面的にもお別れの時がきました。カラーマンになってから、良い事、悪い事含め、思いがけない沢山の出来事があり、その一つ一つが私の人生に大きな影響を与えて来ました。時は流れる。それでも人は生きて行かなければなりません。そして、やがて人は死にゆくのです。

さいごに、東北大震災の一刻も早い復興と、被災者の人たちがもっと希望を持てるような明日が来ることを、祈って長年の駄文シリーズの締めくくりとしたいと思います。みなさま、お元気でいてください。

---

---

### 編集後記

---

---

いやあ、世の中、一寸先は闇だとはよく言ったものですね。まさか、今年の正月には「さざんか」の店じまいをするとは思ってもいませんでした。

でも、個人的には編集子も来年は還暦を迎えることになります。超高齢化社会で人生は長い、とは言いながらも、還暦というのはそろそろ人生の店じまいも視野に入れた生活設計が必要な年なのだと考えると、この辺がやめる潮時であったのでしょうか。残りの人生になにか期するものがあればいいなと思っています。還暦までの、あと 1 年でなにがしかの方向性と云うか、店じまいのための準備だけは完成させたいと願うものです。みなさん、またいつかどこかでお会いしましょう。どうか、お元気で過ごしてください。(高橋 浩一)